

宝塚の未来を伝える

GUIDE

ガイドブック

BOOK

第6次宝塚市総合計画

わたしの舞台は たからづか

2021-2030

Takarazuka City

宝塚市

人口減少や少子高齢化等が進み、様々な課題を抱える宝塚市。

そんな宝塚市が今後どのようなまちを目指し、まちづくりを進めていくのか。

このガイドブックは、第6次宝塚市総合計画を少しでも多くの方に知っていただき、共に宝塚市をより良いまちにしていきたい。そんな思いを込めてつくりました。

共に歩むまちづくりの第一歩がここから始まれば幸いです。



スローガンと3つの重要なまちづくりの視点

このまちをより良くしていくための取組がまちづくりです。
これからのまちづくりを市民と行政が共に進めるに当たり、
「わたしの舞台は たからづか」をスローガンに掲げます。
また、スローガンに込められた3つの想いの実現に向けて、
3つの重要なまちづくりの視点を定めます。



めざすまちの姿

まちづくりの視点などを踏まえ、

10年後のめざすまちの姿を定めます。

この6つのめざすまちの姿を実現するために、

市民と行政で共にまちづくりを進めていきます。

6つのめざすまちの姿

5つの分野に共通するめざすまちの姿

1 共に創り、未来につなぐまち

— 都市経営 —

2

住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち

— 安全・都市基盤 —

3

福祉が充実し、安心して暮らせるまち

— 健康・福祉 —

4

子どもの生きる力が育つまち

— 子ども・教育 —

5

豊かで美しい環境を育むまち

— 環境 —

6

宝塚らしい”にぎわい”と文化芸術が
あふれる、創造性豊かなまち

— 観光・産業・文化 —

5つの分野ごとのめざすまちの姿



共に[※]創り、 未来につなぐまち

- 一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されています。
- 協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めています。
- すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きています。
- 市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいます。
- まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着^{いだ}を抱く人が増えています。
- ICTの活用によるスマート自治体の推進により、行政事務が効率化するとともに、市民の利便性が向上しています。
- 人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されています。

※「共に」の主体は、「市民と行政」、「市民と市民」

住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち

- 命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っています。
- 地震や風水害、感染症に市民と行政が共に備え、地域で助け合う意識が高まることにより危機対応力が強化されています。
- 充実した消防・救急体制のもとで、安心して暮らしています。
- 犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしています。
- 消費者トラブルの予防や対処に関する知識が広がり、自ら考え、行動する消費者が増えています。
- 人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいます。
- 良好な住宅を次の世代へつなぎ、誰もがずっと住み続けたいと思える魅力的な住環境が整っています。
- 歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されています。
- 河川の整備や土砂災害対策が進むとともに、憩いや安らぎのある水辺空間がつけられています。
- 安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されています。



福祉が充実し、 安心して暮らせるまち

- あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしています。
- 病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいます。
- すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っています。
- 誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っています。
- 高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えています。
- 「シンシアのまち宝塚」に向け、^{がい}障害のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えています。
- 社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心して健やかな暮らしが守られています。

子どもの生きる力が育つまち

- 意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できています。
- 子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長しています。
- 妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っています。
- 学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切に^{ひら}にする心が育まれています。
- 誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりにも生かされています。
- 様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっています。



豊かで美しい環境を 育むまち

- 北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしさを感じる景観が保たれ、魅力を増しています。
- まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増しています。
- 地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいます。
- 自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっています。
- ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会づくりが進んでいます。
- まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれています。

宝塚らしい“にぎわい”と 文化芸術があふれる、 創造性豊かなまち

- 既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えています。
- 起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えています。
- 多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいます。
- 誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されています。
- 多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されています。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいます。
- 国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいます。

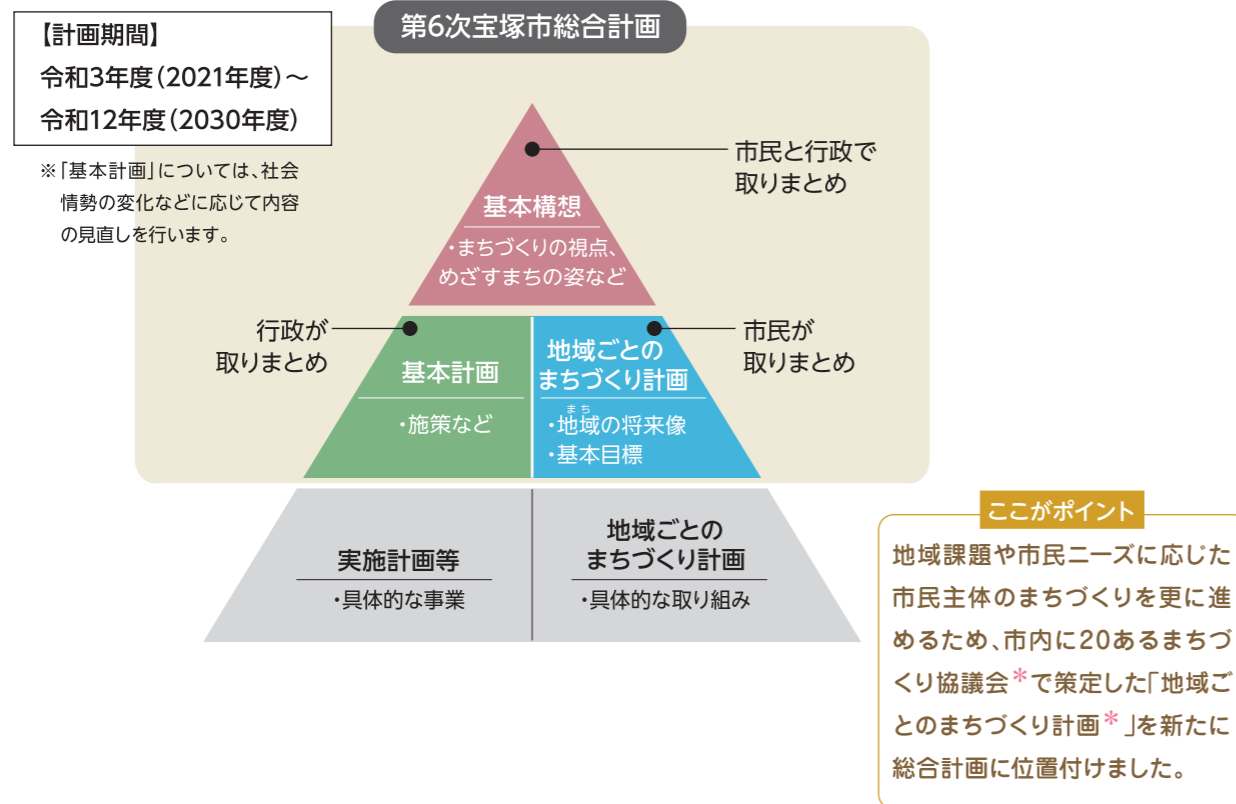


第6次宝塚市総合計画ってどんな計画？

総合計画とは

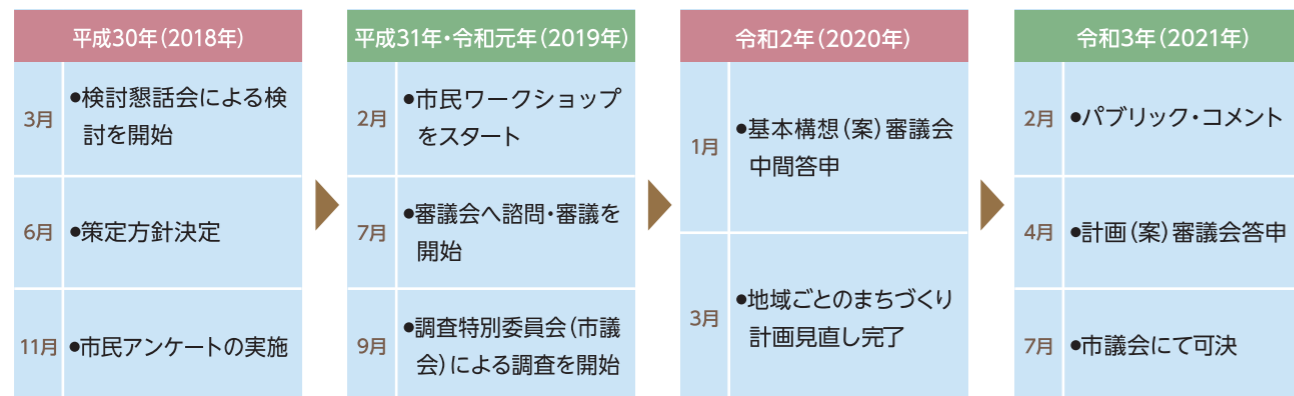
総合計画は、総合的かつ計画的にまちづくりを推進するための計画であり、市民と行政によるまちづくりの方向性を示すものです。また、本市が定める計画の最上位に位置付けられるものです。

【総合計画の構成と期間】



【計画策定の経過】

宝塚市に関わりのあるたくさんの方のご意見を踏まえながら策定しました！



*まちづくり協議会

おおむね小学校区をエリアとして、自治会を中核に、地域内の各種団体やグループなど、あらゆる人々との連携を図りながらまちづくり活動を推進する組織。本市において、平成3年(1991年)から順次発足し、平成11年(1999年)に市内全域で組織化が完了。

*地域ごとのまちづくり計画

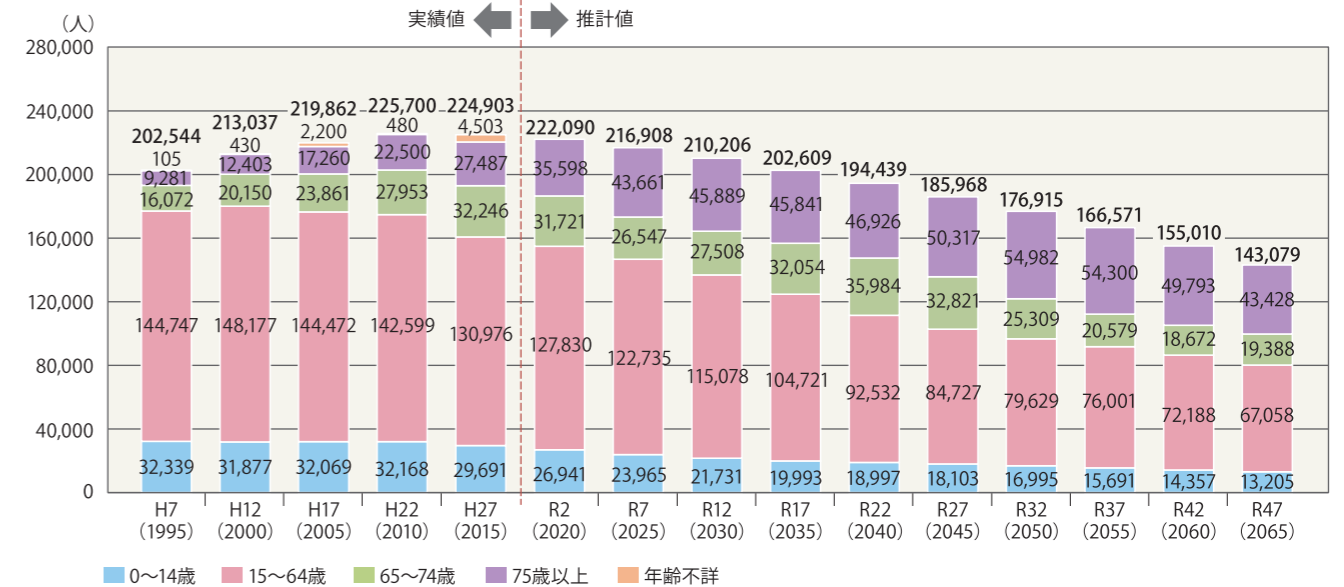
市内に20あるすべてのまちづくり協議会において、市民自らが地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、目標や具体的な取組等を取りまとめています。

計画策定の背景

人口減少・少子高齢化

本市の人口は、平成27年(2015年)国勢調査で減少に転じ、大きな転換点を迎えました。人口減少や少子高齢化が進行すると、税収の減少や社会保障関連費用の増加が見込まれ、財政状況はより一層厳しさを増していくため、これまでの市民サービスの維持が困難となるおそれがあります。

【本市の年齢区分別人口の推移】



SDGsの取組の広がり

国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、17のゴールと169のターゲットで構成され、地球上の“誰一人取り残さない”社会の実現のため、世界各国で取組が進められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



みんなで進めるまちづくり

総合計画は、市民と行政が知恵を出し合いながら、協働で計画づくりを進めてきました。
ここでは、みんなで一緒に取り組んできた活動の一部をご紹介します。

市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」の開催

総合計画策定に向けたワークショップの開催は初!

このまちをもっと良くしたいと思う10代から80代までの幅広い世代の方が集まり、宝塚市のめざすまちの姿などについて、それぞれ想いを出し合いました。「タカラ ミライ ラボ」で出た意見は提言書として市に提出いただきました。第6次宝塚市総合計画のスローガンの「わたしの舞台は たからづか」というフレーズは、「タカラ ミライ ラボ」から生まれたものです。



「地域ごとのまちづくり計画」の見直し

市民と行政が協働で見直しに取り組みました!

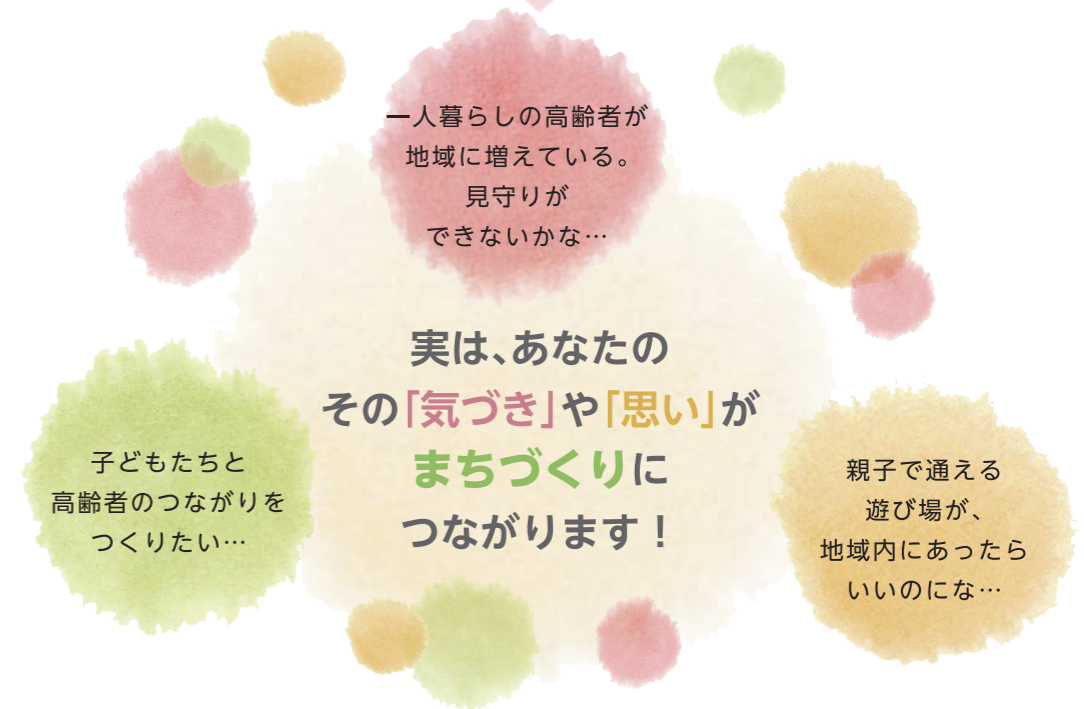
市内に20あるまちづくり協議会では、「地域ごとのまちづくり計画」の見直しに取り組みました。見直しにあたっては、会議を行い丁寧な話し合いを重ねてきました。また、広く地域の人々の声を聴くために、アンケートの実施や意見交換会など工夫をしながら見直しを進めてきました。



これからのまちづくりを進めるうえで大切なこと

「宝塚のまちがこんな風になったらなあ」と思う「気づき」や「思い」はまちづくりへの第一歩です。
あなたの身近でも、「気づき」から生まれたまちづくりが始まっているかもしれません。

あなたの住む「まち」の中で、こんなことを感じたことはありませんか?



宝塚市内では、様々な団体が主体的に地域の「まちづくり」に取り組んでいます。

市民活動団体の活動事例

気づき

西谷の魅力をよくの人が知ったら、西谷にたくさんの方が来て、まちが元気になるだろうなあ…

取り組み

西谷の魅力の一つである「農産物」と「景観」を掛け合わせた、レシピノートを制作し配布。

結果

都市部や海外など多方面の方々に、西谷での新たな楽しみ方として、情報や魅力を届けることができた。



まちキョン

市は、まちづくり活動に取り組む自治会やまちづくり協議会、市民活動団体などと連携するとともに、これら組織・団体への支援を行い、一緒にまちづくりを進めていきます。

宝塚のまちでは、気づきや思いの実現に向けて活動されている方がたくさんいらっしゃいます。
あなたも、活動してみませんか?

発行日 令和3年(2021年)8月

発行 宝塚市

編集 企画経営部 政策室 政策推進課

〒665-8665 兵庫県宝塚市東洋町1番1号

TEL:0797-71-1141(代表)

URL: <https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/>